

第5学年 体育科学習指導案

北広島町立八重東小学校 指導者 杉谷 洋造

日 時 平成26年5月14日(水) 第5校時

学 年 第5学年 16名

単元名 ボール運動ゴール型「バスケットボール」

1【運動の特性】

○一般的特性

ボール運動は、ルールや作戦を工夫して、集団対集団の攻防によって競争することを楽しむことや喜びを味わうことができる運動である。ゴール型のバスケットボールは、攻めと守りが入り交じり、手でパスやドリブルをしてボールを運び、シュートによって相手チームと得点を競い合っている楽しい運動である。

○児童から見た特性

ボール運動は、みんなでルールを工夫して、ゲームができる楽しさがある運動である。また、仲間と協力してボールをコントロールする楽しさがある運動である。さらに、チームで作戦を立てて、相手チームとの攻防のかけひきをする楽しさがある運動である。

しかし、バスケットボールのように攻守が入り交じりながら展開されるゲームの状況下で、周りの動きを把握しながら瞬時に適切なプレーを選択することには、難しさを感じる児童もいる。

2【児童の実態】

本学級の児童は、集団の規律を守って行動することや友達と励まし合いながら運動することがよくできる。運動が好きな児童がほとんどだが、持久力を必要とする運動に苦手意識をもっている児童もいる。昨年度の新体力テストでは、男女とも全種目において、全国平均を上回ったが、投力や持久力については、課題の大きい児童もいる。

ゴール型のボール運動系については、3年時にタグラグビー、4年時にポートボールを基にした易しいゲームを通して、パスやシュートなど基本的なボール操作やボールをもたない動きを学習した。また、自分たちの課題に応じてチーム練習を選択することを経験している。

ただ、日常の遊びにおいては、これらの運動とつながりのある遊びを進んで行っている姿は見られない。

3【授業づくりの意図】

本単元では、プレーヤーの数や、プレー上の制限、場の設定などを工夫することによって、どの児童もパス、ドリブル、シュートをする機会ができるだけ多くなるように、バスケットボールを基に簡易化されたゲームで指導を行う。

単元のはじめの段階では、攻撃しやすい状況の中で、工夫したルールや場に慣れながらゲームを行う。後半に進むにしたがって、攻撃側と守備側の人数を同数にしたり、自分のチームに合った作戦を立て、それを生かした攻撃をしたりして、ゲームを行う。また、単元を通して、自分たちでルールを工夫して楽しめるシュートゲームやパスゲーム、ミニゲームなどを行うことで、ドリブルやパス、シュートなど基本的なボール操作の技能を身につけさせるとともに、授業で学習したことを休憩時間等の「遊び」につなげられるようにする。

指導にあたっては、それぞれのゲームのねらいやモデルを明確にした上で、作戦の立て方や練習の仕方をつかませ、それらを生かした攻防の楽しさや喜びを味わわせるようにする。

4 研究の視点

研究主題

『体力づくりの日常化・生活化につながる体育科授業と遊びの創造』
～「遊び」が生まれる「時間・空間・仲間・人間」づくりを通して～

○体育科の授業改善の目標

体力づくりの日常化・生活化につながる体育科授業を創造する。

○授業研究の目的

- ・八重東型体育科授業モデルのポイント（下のア～ク）に基づき、授業を検証することで、全学年の授業改善を図る。
- ・体育科の授業で学んだことを日常化・生活化していくための工夫について協議し、具体的な方策を検討する。

○八重東型授業モデルのポイント

- ア 授業の始めに、集合までの時間を使ったサーキット運動を行う。
- イ 笛の合図（整列、集合、注目、立つ、座る）で、規律ある行動を指導する。
- ウ 教師による意図的、効果的な準備運動を行う。
- エ 運動の特性に沿って身に付けさせたい力を明確にし、具体的でシンプルなめあてを設定する。
- オ めざす姿をイメージできるように、視覚的な提示や言葉かけの工夫を行う。
- カ 友達とかかわり合う学習活動を取り入れる。
- キ めあてに沿ったふりかえりを行う。
- ク 心と体を落ち着かせる整理運動を行う。

5 単元の目標

- ◎ 簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をすることができるようにする。
(技能)
- 運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
(態度)
- ルールを工夫したり自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。
(思考・判断)

6 単元の評価規準

運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易化されたゲームで、攻守が入り交じった攻防をするためのボール操作やボールを受けるための動きができる。
運動への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるように、ゲームに進んで取り組もうとしている。 ・ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ・運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。
運動についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型（バスケットボール）のゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。 ・効果的な攻め方を知るとともに、チームに合った作戦を選んでいる。

7 単元計画 全8時 ※本時第3時

次	時	学習内容	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	評価規準	評価方法
一	1	単元のねらいと流れをつかみ、はじめのルールや要素を理解する。		○		・ゴール型（バスケットボール）のゲームの行い方を知っている。	観察 ワークシート
二	2	簡易化されたゲームを通して、課題を見つける。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・集団対集団で競い合うための練習やゲームに進んで取り組もうとしている。 ・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 	観察
	3 (本時)	得点につながるシュートの動きを高めるために、工夫してゲームを行う。			○	・パスを受けてシュートすることができる。	観察
	4	相手にとられないようにパスをする動きを高めるために、工夫してゲームを行う。			○	・近くにいるフリーの味方にパスすることができる。	観察
	5	フリーでパスを受ける動きを高めるために、工夫してゲームを行う。			○	・仲間からボールを受けることのできる場所に動くことができる。	観察
三	6	楽しいゲームの仕方を考えたり、ルールを選択したりして、ゲームを行う。		○		・みんながゴール型の楽しさや喜びに触れることができるよう、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。	観察 ワークシート

7	チームの特徴に応じた作戦を選んでゲームを行う。		○		・効果的な攻め方を知るとともに、チームに合った作戦を立てている。	観察 ワークシート
8	これまでの学習を生かして、チーム対抗戦を楽しむ。		○		・ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ・運動をする場の危険物を取り除いたり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。	観察

8 本時

(1) 本時の目標

- 得点しやすい場所へ移動し、パスを受けてシュートをすることができるようにする。(技能)

【体力づくりの日常化・生活化に向けた指導のポイント】

- 自分たちでルールを工夫して楽しめるシュートゲームを例示し、授業の中で経験させる。

(2) 評価規準

- ・パスを受けてシュートをすることができる。(技能)

(3) 準備物

バスケットボール 得点板 ホワイトボード 大型テレビ タブレットPC

(4) 板書計画

5/14

めあて

パスを受けてシュートを打とう

シュートチャンス！とは？

- ・ゴールに近い。
- ・シュートがとどく。
- ・マークがない。

学習の流れ

- 1 サーキット
- 2 めあてと流れのかくにん
- 3 シュート遊び
- 4 チーム練習・会議
- 5 ゲーム
- 6 ふり返り・整理運動

ルール

- ・オールコート3対2
- ・トラベリング、ダブルドリブル禁止
- ・フリーシュートゾーンあり
- ・1ゴール2点
- ・得点 = 点数 × 入れた人数

(5) 学習展開

段階	学習活動	教師の働きかけ・かかわらせ方【●評価】
導入	<p>1 サーキット運動 ・大股スキップ, 10m ダッシュ, ボールパスなど</p> <p>2 めあての確認</p>	<p>○体育館へ入った児童から, サーキット運動に取り組ませる。</p> <p>○前時の課題や成果, 視覚的資料などを提示して, めざす姿をイメージできるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○○さんは, 何度もいい所からシュートしていました。 ぼくもシュートを打ちたかったけど, 打てませんでした。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ゴールの近くで, 相手のいないときにパスをもらえたらシュートチャンスだと思います。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>シュートチャンス!とは, どんなときでしょうか。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>パスを受けてシュートを打とう。</p> </div>
展開	<p>3 ゲームにつながる運動 ・指, 手首, 足首, ひざのほぐし ・フェイントやピボット</p> <p>・ゴール下シュート チーム内で2人組を作り, 時間内に決めたゴール数で競う。</p> <p>・ドリブルシュート 指定されたドリブル回数内でシュートしたり, ルーズボールを拾ってシュートしたりする。</p> <p>4 ルールの確認</p>	<p>○静から動へと徐々に雰囲気を変え, 体と心をほぐすことができるようにする。</p> <p>○基本技能を身に付けさせる練習に取り組ませる。</p> <p>○自分たちでルールを工夫して楽しむ方法を紹介し, 休憩時間の遊びにつながるようにする。 「リバウンドを取ったらすぐシュート!」</p> <p>「ドリブルで運んで, シュート!」</p> <p>○得点のルールを確かめ, 全員がシュートを打てるように攻め方を工夫することへの課題意識を高める。</p>
<p>【基本的なルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃側がボールを保持している間は3人で攻め, 守備側は2人で守る。 ・守備側が体に触れたら, 即ファウルとする。 ・ゴール下斜め 45 度付近のフリーシュートゾーンからのシュートはブロックできない。 ・ボール保持者は, 3歩以上歩いてはいけない。また, ドリブルをして止まった後, 再度ドリブルは行えない。(トラベリング・ダブルドリブル) ・得点はゴール合計点数(1 ゴール2点)に, シュートを入れた人数を掛けて計算を行う。 (例 A チーム 10 点×2人= 20 点 B チーム 8 点×3人= 24 点) 		

<p style="writing-mode: vertical-rl;">言語活動の充実</p>	<p>5 チーム練習・チーム会議 ・3対1シュートゲーム</p>	<p>○初めの動きを決めた約束ゲームを通して、ゴールの近くでパスをもらってシュートしたり、相手のいないときにシュートしたりする動きを練習させる。</p> <p>○チームごとに3対1シュートゲームをしながら、シュートにつながるよい動きについて話し合わせる。</p>
	<p>ゴールの近くでパスを受けてシュートをしたからです</p> <p>相手がいないところへ動いてパスを受けてシュートしたからです。</p>	<p>今のプレーでは、どうして、シュートが決まったのでしょうか。</p> <p>指導のポイント シュートにつながった動きのポイントを説明させたり、説明した動きを実際にさせたりする。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめ</p>	<p>6 ゲーム②「本ゲーム」</p> <p>練習した動きが、ゲームの中でできるように、みんなで声をかけ合おう。</p>	<p>○練習した動きを意識してゲームを行わせる。</p> <p>○シュートが成功したときの動きとそうでないときの動きの違いに気付くことができるようにする。</p> <p>シュートがうまくいくときといかないときでは、どちらがうのでしょうか。</p> <p>●パスを受けてシュートすることができる。【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールの近くでパスを受け、シュートしている。 ・相手チームがいないところへ動いてパスを受け、シュートしている。
	<p>7 振り返り</p> <p>味方がボールを持ったときに、逆サイドに素早く動いたら、パスをもらってシュートを打つことができました。</p> <p>守りを崩して、いいところからのシュートをたくさん打つことができれば、得点も増えますね。</p>	<p>○整列の仕方や聞く態度などのルールやマナーを守って行動できるようにする。</p> <p>○めあてにそって、よかった点や課題を発表させる。</p> <p>○よい動きができるようになったところを取り上げ、評価する。</p>
	<p>8 整理運動</p>	<p>○ストレッチを中心とした静的な運動で体と気持ちを落ち着かせるようにする。</p>